

2011年7月26日

東京都教育委員会 教育長 殿

都立定時制高校守る会連絡会

代表 多賀 哲弥

定時制高校の生徒募集に関する要請書

昨年度、都立定時制高校は二次募集で300人を超える人が不合格となり、異例の「追加募集」が行われたことは記憶に新しいところです。学校現場は混乱し、マスコミを賑わす社会問題となりました。公立中学校卒業生数が約3000人減った今年度でも、多摩地区を中心に140人ほどの不合格者が出たと伝えられています。

こうした状況は、昨年度に突然始まったわけではなく、2000年代半ば頃から徐々に現れていました。そのため、私たちは毎年都教委に要請し、具体的な対応策を求めてきました。しかしながら都教委は何の対応も行ってきませんでした。事態の原因が、統廃合による定時制高校の大幅な減少にあることは明らかです。

今年度末、公立中学卒業生数は約2000人増加し、その後10年間程度高原状態が続き、ピーク時には今年度より約4000人も中学卒業生数が増えると推定されています。このままでは昨年度と同様、あるいはそれ以上の危機的状況が生まれることが危惧されます。そこで都教委に対して、以下の項目を強く要請いたします。

記

1. 定時制高校で大量の不合格者を生まないように、中・長期的展望に立った就学計画を早急に策定してください。
2. 定時制高校では特に遠距離・長時間通学は望ましくありません。定時制高校はさまざまな地域に存在することが重要です。したがって定時制の募集枠拡大は、今ある定時制高校の大規模化ではなく、募集停止校の募集再開など学校数を増やす方向で計画してください。
3. 計画の策定に当たっては、
 - ① 学級定員増や学級増減基準の改悪など生徒に新たな負担を強いたり、教育条件を悪化させるようなことをしないでください。
 - ② 「追加募集」のときのように学校現場の実情を無視した一方的なやり方を繰り返さず、生徒・保護者・教職員の声を十分に聴いて反映させてください。